国語科学習指導案

平成 29 年 6 月 20 日

1　単元名　広告を批評する（３年）

2　単元の目標

〇対象を様々な角度から分析し、自分の考えを明確に伝えようとしている。
（国語への関心・意欲・態度）
〇社会生活の中から課題を決め、批評を行う観点を吟味している。（書くこと　ア）
〇様々な観点から対象を分析し、中心とする観点を決めて説得力のある批評文を書くことができる。（書くこと　イ）
〇対象を分析、評価するための適切な言葉を吟味することができる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

3　評価規準

国語への関心・意欲・態度	書くこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
・色々な広告の視聴者を想定し、様々な考えを理解しようとしている。	・広告を批評する様々な観点を想定して意見を述べている。（書くこと　ア） ・自分が中心に伝えたいことを考え、筋の通った批評文を書いている。（書くこと　イ）	・広告を批評するのにふさわしい言葉を使っている。（イ(イ)）

4　単元について

⑴　単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、広告を批評する文章を書く。批評文を書く活動を振り返り活動に生かすことを目標として行う。

振り返りは、目標に照らして自分の活動を評価することである。学校現場では行事の終わりや授業の終わりなど多くの場面で行われる活動である。振り返りの場における評価は、その後の活動の改善へつなげることを意図して行われることが多い。この際に大切なのは自分の活動を客観視すること、すなわちメタ認知である。自分がどこまでできていて、何ができていないのかを自覚することが改善には必要である。そしてここでは、現状を適切な言葉で言語化することが重要である。しかし、振り返りの文章を書く場面において、多くの生徒は、事実を羅列したり、事実に対する感情を述べたりするだけになっている。振り返りを行うという課題をこなすために一定量の文章を書くだけになってしまっているのだ。

そこで本単元では、振り返り文が適切な言葉で分析、評価するものになるよう、批評文を書く活動を設定した。批評は、中学校学習指導要領解説では「対象とする事柄について、そのもののよさや特性、価値などについて、論じたり、評価したりすること」と示されている。対象を批評する文章に説得力をもたせるためには、主観ではなくメタ認知的な視点が必要不可欠である。作者の表現意図やその効果について考えを至らせながら文章を書くことで、そのような視点からものごとを捉える姿勢を身につけられるだろう。また、批評文を書く際には分析や評価の言葉を吟味することになる。対象を的確に言い表す言葉を探す姿勢も身につくだろう。小説の登場人物を分析するように自分自身を分析し、作品の演出効果を評価するように自分の活動を評価するような意識を生徒たちに持たせたいと思う。本単元の後、特別活動で前期前半の活動の振り返りを行わせる。その際に本単元の学習を想起させ、今後の活動につながる振り返り活動としたい。

批評の対象としては広告を選択した。広告は目的や役割、ターゲットの設定が他の表現に比べ明確であるので、生徒が評価の観点を設定する練習としてふさわしい題材だと考えた。また、社会生活の中から題材を取り上げることで、批評という活動が国語の学習の場以外に生活の中で生きて働くものであるということに気付かせたい。

批評の対象とする広告は、生徒に扱いたいものを挙げさせ、指導者が絞り込んで決定する。絞り込む際には、新聞や雑誌の広告、駅や街灯の看板広告など、広告を見る環境、広告のターゲット等が異なるものを意図的に選ぶようにした。

広告を批評するための観点を生徒が立てやすくするための手立てとして、広告に関わる人物になりきった話し合い活動を行う。これは、道徳や特別活動などで広く用いられるロールプレイ（役割演技）の手法を参考にした。ロールプレイは、その親しみやすさから中学校第１学年での実践も多い。本単元では、批評の観点にあたる部分を具体的な人物に置き換えてなりきらせる。例えば、「コピーライター」ならキャッチコピーという観点、「小学６年生」ならば、「年齢の低い、印象を重視する受け手」という観点の具現化になる。批評する対象物を分析する観点を具体化し、なりきって感想を述べることで考えを言語化しやすくすることをねらいとした。学習指導要領や教科書では第３学年で学習することが想定されている批評の学習に、第１学年から取り組ませるための緩衝材のような機能が期待できる。

批評文を書く際や、話し合いの場では、適切な言葉を用いられるよう語彙集を活用させる。この語彙集は、分析に用いる言葉や評価に用いる言葉を例示したものである。この語彙集は、理解語彙を使用語彙として使えるように引き出すことをめざして使用させる。難しい言葉も多いが、自分の使えそうな言葉を使うように指導する。

⑵　単元で身につけさせたい力

本単元では、複数の観点から分析・評価を行い、それを統合して筋道の通った批評文を書く力を身につけさせたい。すなわち様々な観点を想定して分析・評価し、それらの観点を取捨選択し、自分が中心としたい部分を決めて表現する力である。

また、この単元を通して、他教科や特別活動での振り返り活動の基礎となる力を身に

つけさせたい。前述のとおり、国語科の学習において、作り手の意図を考えながら複数の観点を立てて分析し、適切な言葉で評価する活動が、他教科・他領域での振り返りの場に生きると考える。

⑶　⑴と⑵の基盤となる言語環境や継続的な取組

第２学年では、自分の好きな小説やドラマ等の作品や、スポーツ選手や芸能人などの人物について批評をする学習を行った。自分の好きなものや人を選んでよいということもあり、生徒は観点を自由に設定して批評文を書くことができた。次いで、「走れメロス」を批評する学習を行った。この学習では、一人一人の疑問をもとに、小説を分析するテーマ（例　メロスはなぜ走りぬくことができたか、作品中の「笑い」の描写の違い）を設定して批評文を書くことができた。また、評価に使える言葉をリストとして示し、自分の評価を適切に表す言葉を選ぶ学習も行った。

第２学年のこれらの学習は、批評の観点を自分で決定する力をつけるために設定したものである。これらの学習を土台とし、第３学年では、複数の観点を立てる力を身につけさせたいと思う。さらに、批評文を書く際に複数の観点による分析が支離滅裂にならないように、筋道の通った批評文を書く力を身につけさせたい。

６　単元の指導計画（全４時間）

<table>
<tr><th>時</th><th>学習活動</th><th>指導や支援の手立て　◇評価</th></tr>
<tr><td>1</td><td>・学習の見通しを知り、どのような力をつけようとしているのかを確認する。
・批評について確認する。（既習事項）
・広告の表現の特色について学ぶ。
・批評の対象となる広告を探す。</td><td>・今回の批評文では、対象を色々な観点から見ることに重点を置くことを意識させる。

・紙面の広告に限定することを伝える。</td></tr>
<tr><td colspan="3">（第２時までの準備）
・生徒が挙げた広告を吟味して絞り込む。（新聞や雑誌の広告、駅や街灯の看板広告など、広告を見る環境、広告のターゲット等が異なるものを選ぶ。また、同一テーマを扱った広告、同一媒体で特色を出すために特徴的な表現をしている広告なども取り上げたい。）種類が少ない場合は指導者が用意したものも提示する。
・絞り込んだものから批評したい広告を選ばせ、批評する広告を決定する。</td></tr>
<tr><td>2
本
時</td><td>・選んだ広告にどんな人物が関わるかを考えて挙げる。
・広告に関わる人物になりきり、広告に対する感想を述べたり、違う立場の人物に意見を述べたりする。
・グループで出た意見を全体に紹介する。</td><td>・広告に関わる人物について、性別・年齢・職業等を詳しく想定させる。
・大きい紙をグループの中心に置き、それぞれの感想や意見を記録させる。
・表現が稚拙な場合には評価語彙のプリントを活用することを助言する。
◇様々な立場の考えを想像して意見を述べている。</td></tr>
</table>

3 4	・分析したものをもとに説得力のある文章の構成を考える。 ・構成表を用いて実際に文章を書いていく。 ・それぞれの書いた批評文を読み合い、そこから学んだことを共有し合う。 ・教材のまとめ・講評を聞く。 ・学習の振り返りを書く。	・批評の中心になる観点を決め、他の観点をどのように取り入れるかを考えさせる。 ◇述べたいことを決め、それが中心となるような観点や表現を取捨選択している。 ◇自分が中心に伝えたいことが伝わるように、筋の通った批評文を書いている。

7　本時の目標と展開

⑴　本時の目標

・対象を様々な角度から分析し、自分の考えを明確に伝えようとしている。
（国語への関心・意欲・態度）

・広告を批評する様々な観点を想定して意見を述べたり、分析の視点を広げるために他者の意見を聞いたりことができる。（書くこと　ア）

⑵　本時の学習活動

広告の批評文を書くにあたって想定される観点について、ロールプレイを用いて考えていく。選んだ広告を作る側と受ける側、作り手側の様々な役割、受け手側の性別や年齢について想定することにより、観点を立てる練習を行う。

⑶　本時の展開（４時間扱いの２時間目）

学習活動	指導や支援の手立て　◇評価
○本時の学習の見通しをもつ。 本時の目標様々な視点から批評の観点を立てよう！ Ａ１：分析する観点を想定し、列挙する場面。 →Ｂ１：選んだ広告にどんな人物が関わるかをグループで意見を出し合う。 （例）（作り手）制作者、イラストレーター、コピーライター、印刷会社等 （受け手）子供・成人男性・老人、子をもつ母親、自分　等 Ａ２：評価する観点にそって、様々な立場の考えを想定し、適切な表現で評価する場面。 →Ｂ２：始めに自分の感想、考えをノートにまとめる。その後広告に関わる人物になりきり、グループで話し合いを行う。	○あらかじめ板書しておく。 ○教科書に掲載された広告を例に挙げる。（広告の作り手と受け手に分けて考えさせる。広告の受け手については、性別・年齢・職業等詳しく想定させる。） ◇色々な広告の視聴者を想定し、様々な考えを理解しようとしている。 ○大きい紙をグループの中心に置き、それぞれの感想や意見を記録させる。机間巡視をしながら批評の観点や言葉として適切なものに丸をつける。 ○感想の表現が稚拙な場合は、言い換えを考えさせ、評価の語彙集を与える。 ○時間に余裕があれば、別の立場も経験

①広告に対する感想 ②違う立場の者に対する意見 Ａ３:批評する観点と批評の語彙を交流する場面。 →Ｂ３：グループで出た立場と意見（良い言葉の表現）を全体に紹介する。 ○学習の振り返りを行う。	させる。 ◇様々な立場の考えを想像して意見を述べている。 ◇他者の発表から、批評の語彙を広げようとしている。 ○本時の目標に照らして振り返りを行う。